

金沢市伝統工芸品産業 アクションプラン

「手仕事を継承・発展させ、世界に発信するまち 金沢」

概要版



金沢市

■ 金沢市の伝統工芸品産業

金沢市の伝統工芸品産業は26種類を数え、その多彩さは国内屈指の水準にあります。さらに、今もなお工芸品が日常生活の中で愛用され、豊かな生活文化を育てていること、工芸的なものづくりの精神が現代の産業に活かされていることが、金沢における伝統工芸品産業の大きな特徴となっています。

■ 金沢市の伝統工芸品の種類

◇ 国指定伝統工芸品（6業種）…「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいて指定を受けた工芸品



◇ 希少伝統工芸品（20業種）…その他未指定業種

大桶焼、加賀象嵌、茶の湯釜、桐工芸、郷土玩具、加賀毛針、加賀竿、竹工芸、二俣和紙、加賀水引、銅鑼、金沢和傘、加賀提灯、太鼓、琴、三弦、金沢表具、手捺染型彫刻、かつら・かもじ、菓子木型

○ これまでの金沢市の取り組み

金沢市では、明治期の市制施行以来、様々な取り組みを展開してきました。

【人材育成】 金沢美術工芸大学、金沢卯辰山工芸工房の開設、「金沢の技と芸の人づくり奨励金」など

【生産基盤】 加賀友禅染色団地、金沢箔工業団地等の整備など

【販路開拓】 各種展示会開催支援、「金沢・クラフト広坂」等、展示・販売機能の充実など

【都市宣言など】

- ・世界工芸都市宣言（平成7年9月議決）
伝統工芸を新たな視点から世界へ向けて発信していくことを宣言
- ・金沢ファッション産業都市宣言（平成16年6月議決）
伝統工芸を含む生活文化すべてにかかわるファッションの分野で、世界をリードするファッション産業都市づくりを進めることを宣言
- ・ユネスコ創造都市ネットワーク クラフト分野登録（平成21年6月登録）
文化的多様性の実現など金沢の伝統工芸品産業の世界的な役割に期待

■ 伝統工芸品産業の現状

金沢の伝統工芸品産業は、長い歴史の中で市民の生活と文化・地域経済を支えてきましたが、ライフスタイルの変化による需要の縮小など、多くの困難に直面しています。

国指定の6業種(加賀友禅、九谷焼、金沢仏壇、金沢箔、金沢漆器、加賀繡)の生産額を見ると、平成3年をピークとして減少しており、現在、ピーク時の4分の1まで縮小した業種も見られます。また、統計数値のない希少伝統工芸品においても、ほぼ同様の傾向であると考えられます。

また、平成20年度に実施したアンケート調査結果によると、「製造従事者の高齢化」「後継者の不在」「経営状況の悪化」「受注量の減少・受注単価の低下」が浮き彫りとなりました。

取り組むべき課題

●若手後継者の参入促進

技術の保存継承、若年後継者の育成が急務となっている。また、新しい自由な発想によるものづくりを促進するため、作り手が活動しやすい環境を整えるなど、若手後継者の参入を促す必要がある。

●新商品開発・提案の促進

現代生活にあった新商品開発の促進はもちろんのこと、モノとしての商品開発にとどまらず、流通からエンドユーザーまでを見越した企画、提案を促進するための仕組みづくりが必要である。

●「金沢」としての情報発信・マーケティング

ユネスコ創造都市ネットワーク・クラフト分野登録などを契機として、工芸品が支えてきた質の高い生活、伝統文化など、金沢独自の都市イメージと合わせた情報発信、マーケティングを強化する必要がある。

アクションプランの位置付け

このアクションプランは、

「金沢世界都市構想」「金沢世界都市構想第2次基本計画」「金沢市ものづくり基本条例」

などの上位計画・条例等に基づいた、伝統工芸品産業の健全な発展に向けた具体的な施策展開の指針となるものです。さらに、

「世界工芸都市宣言」「ファッション産業都市宣言」「ユネスコ創造都市ネットワーク・クラフト分野登録」

では、金沢の伝統工芸品産業が世界的な役割を担うことが期待されており、このような役割を果たすための具体的な計画としても位置付けられます。

上位計画

「金沢世界都市構想」

「小さくても世界の中で独特の輝きを放つ『世界都市 金沢』の形成」を基本理念として、「伝統工芸は、金沢を象徴する伝統文化であり、伝統産業でありまた個性でもある」と位置づけ、その継承・発展を図ることとしています。

「金沢世界都市構想第2次基本計画」

「伝統文化の保存・継承」として、「産業として成り立ちにくい希少伝統工芸等について、販路や後継者の確保を進める」こととしています。

「金沢市ものづくり基本条例」

伝統工芸品産業を含めたものづくりにおける基本理念を定め、金沢らしい多様なものづくり産業の振興を図ることを目的に、施策展開の指針を示しています。

具体的な施策の展開

都市宣言など

- ・世界工芸都市宣言
- ・ファッション産業都市宣言
- ・ユネスコ創造都市ネットワーククラフト分野の登録

取り組むべき課題

課題の解消

世界的な役割を期待

金沢市伝統工芸品産業アクションプラン

アクションプランの推進期間

- ・このアクションプランの推進期間は、平成22年度から平成31年度までの10年間とします。
- ・なお、社会経済状況の変動、伝統工芸品産業をめぐる情勢の変化、施策実施の結果等を踏まえて、平成26年度に見直しを行います。

■ アクションプランの基本理念

- ・金沢の伝統工芸品産業は、全国の多くの産地と同様に需要の縮小に直面し、伝統技術を継承する職人の減少、製品開発・販路拡大の難しさなど、厳しい状況に置かれています。
- ・このアクションプランは、こうした現状を打開し、新しい工芸品の開発、販路の拡大、情報発信などを通して、金沢市の伝統工芸品産業の振興を目指すものです。これまで伝えられ、積み重ねられてきた手仕事の技能と知恵を、次の世代に確実に継承するとともに、新しい感性により伝統を発展させ、現代に生きる人々の心を動かす新しい金沢の工芸を創造し、広く世界へ発信していくことを志向します。
- ・このため、アクションプランの基本理念として、「手仕事を継承・発展させ、世界に発信するまち 金沢」を定め、さらに分野ごとに4つの将来像を設定し、施策展開の柱として位置づけます。

■ 基本理念

「手仕事を継承・発展させ、世界に発信するまち 金沢」

4つの将来像

作り手が躍動するまち（人材育成）

新しい工芸を創造するまち（製品開発）

手仕事の価値を発信するまち（情報発信・販路拡大）

暮らしに工芸が息づくまち（普及推進）

■ 各主体の役割

● 事業者の役割

技能の継承と向上、新しい製品開発や販路拡大に取り組み、現代の生活にあった製品、使い方の提案に努める。産地組合等の団体は、経済的支援にとどまらず、伝統工芸が金沢の文化の重要な一翼を担っていることを認識し、伝統工芸品産業の発展と工芸品への理解の拡大に努める。

● 市民の役割

伝統工芸品産業への理解を深めるとともに、暮らしの中に工芸品を活かし、金沢の文化として次の世代へ継承していくことが求められる。

● 高等教育機関・試験研究機関の役割

各機関の特性に応じて、製品開発、販路拡大、技術開発などに取り組みるとともに、事業者や行政との連携を深め、課題の解決に努める。

● 市の役割

本プランの推進主体として目標に向けた総合的かつ計画的な施策展開を進める。また、事業者等と連携し、イベント等を通して、伝統工芸品産業の役割や工芸品のよさを市民に伝えていく。

作り手が躍動するまち(人材育成)

手仕事を継承する

「平成の百工比照」の収集・作成や、後継者不在となった希少伝統工芸の復刻研究を行い、伝統技術の記録・保存を進めるとともに、熱意のある若い世代の参入を促進し、技術の確実な継承を図ります。

■主な施策

・「平成の百工比照」の収自作成・公開

伝統工芸品の製造工程資料やサンプルなどを収集した平成版「百工比照」を作成し、公開します。

※百工比照(ひゃっこうひしょう)

加賀藩五代目藩主前田綱紀が収集・整理・分類した工芸全般にわたる標本資料の集大成であり、江戸時代の各種工芸技術の資料として重要な価値を持っています。

・希少伝統工芸の復刻研究

後継者不在のため途絶えてしまった伝統工芸について、産業化の可能性を検討しながら復刻研究を行い、技術の継承を図ります。

・「技と芸の人づくり基金」による奨励金制度

若手後継者等に奨励金を交付し、後継者難に悩む業種の人材育成を支援します。

・金沢和傘伝承研究会による後継者育成

希少伝統工芸である金沢和傘の後継者育成のため、県外から職人を招へいし、和傘づくりの研究を行います。



金沢和傘伝承研究会の研修風景

手仕事を発展させる

業種を超えた研修会、交流を支援し、作り手同士の多様なネットワークの形成を進めていくことで、手仕事を発展させ、作り手たちが自在に連携できる、作り手が躍動するまちを目指します。

■主な施策

・伝統工芸異業種職人交流研修塾の開催

高等教育機関等と連携しながら、若手職人を対象として業種を超えた研修会を開催し、事業意欲の向上を促進します。

・伝統工芸職人同士の交流支援

若手職人等が自主的に開催する技術開発等の研修会等を支援します。



伝統工芸異業種職人交流研修塾

新しい工芸を創造するまち（製品開発）

製品開発を支援する

デザイン性の高い新製品の開発や、高等教育機関・試験研究機関等と連携し、職人の持つ高度な技術と現代の技術を融合させることで、現代生活に調和する高い品格を持った伝統工芸品の開発を促進するなど、意欲的な商品開発を支援します。

■主な施策

・金沢ファッション産業創造機構による新製品開発支援

商品デザインコンペティションの開催や、デザイナーとのマッチング等を進め、デザイン力を付加したものづくりを促進します。

・加賀友禅技術振興研究所での取り組み

加賀友禅における諸課題を研究する専門機関として設立された加賀友禅技術振興研究所では、新製品開発支援のほか、販路開拓、後継者育成事業などを実施します。



加賀友禅技術振興研究所
新製品開発会議



金沢ファッション産業創造機構が開催した
商品デザインコンペティションの大賞作品

基盤を整備する

中心市街地の町家を若手職人のインキュベーション施設として活用するなど、金沢らしいものづくり基盤の整備を進め、新しい工芸を創造するまちを目指します。

■主な施策

・金沢町家職人工房の開設・運営

中心市街地の町家を、若手工芸作家等や職人の独立を支援する工芸版インキュベーション施設として活用します。

・中心市街地への職人工房の開設促進

中心市街地の空き店舗や空き家を工芸家や職人の創作活動の場として活用するため、工房の開設費用や賃借料を補助します。



金沢町家職人工房東山

手仕事の価値を発信するまち (情報発信・販路拡大)

金沢から発信する

「おしゃれメッセ"かなざわごのみ"」「金沢・クラフト広坂」の充実などを通して、金沢から付加価値の高いものづくりを発信するとともに、金沢版「クラフト・ツーリズム」の展開により、金沢の伝統工芸を広く世界にアピールします。

■主な施策

・「おしゃれメッセ"かなざわごのみ"」の開催

国内外のバイヤー等に向けた見本市とファッションショーなど市民参加型イベントを通して、繊維や工芸品の技術を活かしたファッション産業都市金沢らしい付加価値の高いものづくりを内外に発信します。



おしゃれメッセ“かなざわごのみ”

・金沢版「クラフト・ツーリズム」の展開

外国人旅行者などに向け、金沢の歴史に培われた手仕事にふれる旅が体験できるモデルツアーを行います。また、金沢で学会等を開催する団体が、あわせてクラフトツーリズムを実施する場合、その費用の一部を市が助成します。(事前申請が必要です)



金沢版「クラフト・ツーリズム」

販路を広げる

販路拡大を進めるため、使い手と作り手をつなげる販路開拓コーディネーターの設置、流通関係者等によるセミナー等の開催、ITビジネスプラザ武蔵との連携による情報発信力の強化などにより、作り手の顔が見える、金沢らしい手仕事の価値を発信するまちを目指します。

■主な施策

・金沢ファッション産業創造機構による販路拡大支援

金沢におけるデザイン分野と地場産業、伝統工芸品産業とのビジネスマッチングを推進し、付加価値の高い新製品を開発するとともに、販路拡大を促進します。

・「金沢・クラフト広坂」による販路拡大と情報発信

金沢工芸普及推進協会が運営する「金沢・クラフト広坂」では、販路の少ない希少伝統工芸品を中心に展示・販売を行っています。また、2階ギャラリーでは、様々な企画展示を行っており、情報発信の拠点ともなっています。



「金沢・クラフト広坂」

暮らしに工芸が息づくまち (普及推進)

知ってもらう・使ってもらう

市民を対象とした伝統工芸に関するさまざまな普及講座や体験教室を充実させるとともに、まちなかでのクラフトワゴン市の開催など使い手が作り手と直接対話しながら商品に触れる機会をつくり、多くの市民が伝統工芸品産業への関心を高め、生活の中に工芸品を取り入れるきっかけづくりをします。

■主な施策

・まちなかクラフトワゴン市の開催

若手工芸作家の市民への認知向上、販路開拓を図るため、作り手自らが工芸品を展示・販売するクラフトワゴン市を開催します。

・伝統工芸体験教室の実施

伝統工芸の良さを知ってもらうため、市民向けの体験教室を実施します。



伝統工芸体験教室 (金工)

次世代へ継承する

金沢の伝統工芸文化を次世代に継承するため、小中高生向けの工芸体験など伝統工芸品とのふれあいの機会を創出するとともに、今後、大学等で伝統工芸品産業の講座を開催し、全国から集まる学生等にも金沢の伝統工芸への理解を深めてもらうことで、工芸品を生み出すだけでなく、一人ひとりが日常生活の中に工芸品を取り入れ、市民の暮らしに工芸が息づくまちを目指します。

■主な施策

・伝統工芸品にふれあう機会の創出

子どもたちが工芸への理解を深め、工芸品を身近に感じることができるよう、さまざまな生活場面で工芸品にふれあえる機会の創出を検討します。

金沢市伝統工芸品産業アクションプラン (概要版)

発行 金沢市産業局クラフト政策推進課

〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1

TEL:076-220-2373 FAX:076-260-7191

e-mail: craft@city.kanazawa.lg.jp

発行日 平成 22 年 3 月 31 日



金沢市は平成21年6月に世界で初めてユネスコ創造都市ネットワークにおけるクラフト分野で登録されました。

このシンボルマーク「テトメデス」は、この取り組みがわかりやすく身近なものとして感じられるよう、金沢独自の職人気質による手仕事の「手」と、良いものを見極める目利きの「目」で表現されています。